

登録コード	EKG07900	開講年度	2026				
授業科目	特別なニーズのある子どもの教科研究					担当教員	宮地 弘一郎 他
英文授業名	Study of subject education in special needs education					副担当	奥村 真衣子・上村 恵津子・楠見 友輔・下山 真衣・戸谷 健史
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年	
講義室	教育 E 1 0 6		授業形態	演習	備考	2020年度生～	
信大コンピテンシー	該当						
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 E A カリ, 2 5 E A カリ, 2 4 E A カリ						
	教育の専門職としての学識・技能					⇔	・主として知的障害のある子どもの、深い学びとしての教科的なものの見方を実現するための授業づくりや教材開発を行う基盤を形成する。
	子どもの多様なニーズへの対応力					⇔	・事例検討や授業分析を通して、教育開発・授業研究の方法を学ぶことで、学校教育の現場の実践的課題に即した授業づくりや教材開発ができる。
	2 4 E A カリ						
	既存の枠組みを超える柔軟な発想力と深い省察力					⇔	子どもの主体的・対話的で深い学びを実現する高度な授業力を身につけるとともに、他者と協働しつつカリキュラムの開発や新たな授業方法をデザインし、改善していくことができる。
(2)授業の概要	・主として知的障害のある子どもの教育を中心に、特別支援教育の近年の動向、および、学習指導要領の理解と活用のための講義・演習を行う。 ・各教科の専門諸領域の研究成果や最近の動向について学び、教科的なものの見方について理解を深める。 ・個別指導や生活単元学習等の実践事例や学習指導案を分析し、特別なニーズのある子どもの深い学びを実現する単元設定と展開、教材開発および支援の視点と方法、カリキュラム開発について討議を行う。						
(3)授業計画	授業は複数の教員のITで実施し、教員または受講生による話題提供とディスカッションを中心に行う。 (担当教員：特別支援教育分野) 宮地弘一郎・下山真衣・戸谷健史・奥村真衣子・上村恵津子・楠見友輔 (担当教員：教科分野※ ※教科分野の担当教員は年度によって入れ替わる場合があります) 大井和彦(国語／言語学・国語科教育学)・大島賢一(図画工作・美術／美術科教育学)・沖嶋直子(家庭／食物学)・小倉光明(技術／情報教育学)・篠崎正典(社会／社会科教育学)・竹下欣宏(理科／地質学)・瀧直也(野外／野外教育学)・野口舞子(社会／外国史)・橋本政晴(体育／スポーツ社会学)・松澤泰道(算数・数学／数学)・村松浩幸(技術／技術科教育学) 各内容の実施日程については変更する場合がある(日程と内容の詳細は第1回のガイダンスで案内します)。 第1回 ガイダンス／認知発達と教科研究 第2回 特別支援教育の動向と課題 第3回 概念的・社会的・実用的スキルの困難性と関連教科：国語科分野研究者と考える 第4回 概念的・社会的・実用的スキルの困難性と関連教科：算数・数学科分野研究者と考える 第5回 概念的・社会的・実用的スキルの困難性と関連教科：社会科分野研究者と考える 第6回 概念的・社会的・実用的スキルの困難性と関連教科：理科分野研究者と考える 第7回 概念的・社会的・実用的スキルの困難性と関連教科：体育科分野研究者と考える 第8回 概念的・社会的・実用的スキルの困難性と関連教科：家庭科分野研究者と考える 第9回 概念的・社会的・実用的スキルの困難性と関連教科：技術科分野研究者と考える 第10回 概念的・社会的・実用的スキルの困難性と関連教科：野外教育研究者と考える 第11回 演習：深い学びの実現について考える1 授業デザイン構想 第12回 演習：深い学びの実現について考える2 授業デザイン発表 第13回 演習：深い学びの実現について考える3 実践報告(事例A) 第14回 演習：深い学びの実現について考える4 実践報告(事例B)						
(4)成績評価の方法	演習における発表内容(30%)，討論(30%)，最終レポート課題(40%)の成績を総合して評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可						
(5)履修上の注意	・履修を検討している学生は、受講登録前に必ず宮地までメール相談してください(アドレスは下記連絡先欄に記載)。 ・積極的に意欲をもって受講すること。 ・不明な点は、質問するなどして、積極的に解決すること。						
(6)質問、相談への対応および連絡先	授業全般に関する相談は、特別支援教育グループ・宮地(miyaji@shinshu-u.ac.jp)まで。 各担当教員への質問・連絡方法は、各自担当教員と相談して決定すること。連絡先については別表「担当教員のオフィスアワー」を参照すること。						
(7)成績評価の基準	秀「卓越している」：特別支援教育における教科の教育理論と方法を高度に理解するとともに、実践的課題および課題への貢献について深く考察できる。 優「かなり上である」：特別支援教育における教育理論と方法を的確に理解するとともに、実践的課題および課題への貢献について深く考察できる。 良「やや上にある」：特別支援教育における教育理論と方法をおおよそ理解し、実践的課題および課題への貢献について考察できる。 可「水準にある」：特別支援教育における基本的な教育理論と方法を最低限説明でき、実践的課題および課題への貢献について考察できる。						

(8)事前事後学習 の内容について	各回の内容に関連した文献等を事前に図書館などで自主的に検索・収集して調べる。なお、討論において、受講者が実際に実施した実践資料、または実施を計画している実践計画案等を準備する場合がある。 また、各回の講義・演習で話題になったことについて、自分で調べるなどして考察を深めること。授業と自主学習の時間を合わせて、90時間程度の学習を原則とする。
【教科書】	・文部科学省(2018)特別支援学校学習指導要領解説 各教科編(小学部・中学部) ・ “ (2020)特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者各教科編(上)(下)(高等部)
【参考書】	・文部科学省(2017)特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 その他、必要に応じて適宜紹介する。